

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 3歳

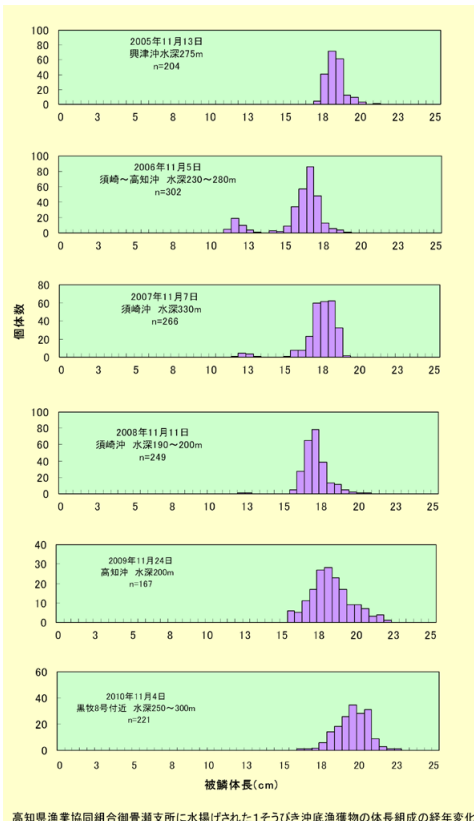
成熟開始年齢: 2歳

産卵期・産卵場: 主に春季(2～3月)、秋季(11～12月)にも産卵、水深200～300mの海底付近

索餌期・索餌場: 春～秋季(5～11月)、金華山以南～九州太平洋沿岸の水深100～450mの海域、成長に伴い沿岸からより沖合の生息域に移動

食性: 幼稚魚期は主にコペポダ、成長に伴いオキアミが主体

捕食者: 中・大型の底魚類



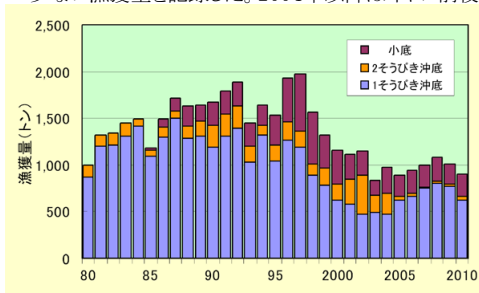
高知県漁業協同組合御豊瀬支所に水揚げされた1そうびき沖底漁獲物の体長組成の経年変化

漁業の特徴

漁場の中心は伊豆半島以西～九州太平洋側であり、水深200～300mの海底付近で、主に1そうびき沖底びき網(沖底)により漁獲される。土佐湾および熊野灘における漁獲が主体であり、1そうびき沖底の総漁獲量の約8割を占める。金華山～房総沖の漁場については資料はないが漁獲量は少ない。その他、2そうびき沖底、愛知県外海小型底びき網(小底)によっても漁獲される。2そうびき沖底の着業隻数が大幅に減少したため、当該漁業種類による漁獲割合はわずかである。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代後半から増加傾向となり1992年には1,892トンに達した。その後、やや減少したが1997年には1,997トンと過去31年間で過去最低となつて以降、最高漁獲量となった。その後は減少に転じ、2003年には833トンと最も少ない漁獲量を記録した。2004年以降は千トン前後で推移し、2010年の漁獲量は901トンであった。

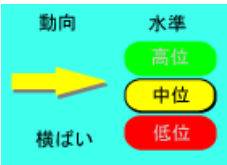
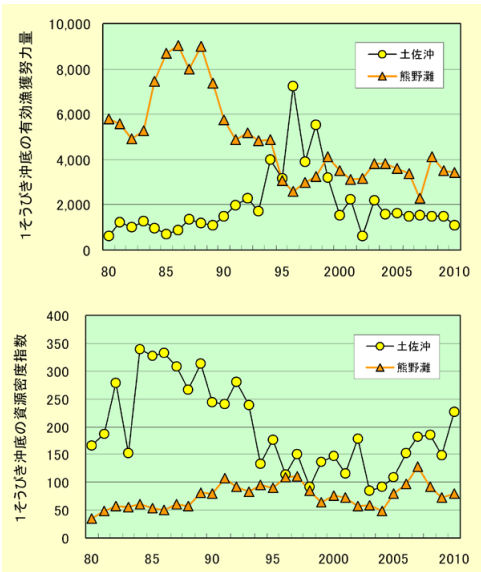


資源評価法

総漁獲量、本種を主要な漁獲対象とする1そうびき沖底の資源動向の指標をもとに資源評価を行った。土佐沖と熊野灘における1そうびき沖底の資源密度指数の最近5年間の変化傾向をもとに、資源の水準・動向の評価を行った。

資源状態

1998年から2002年頃にかけての漁獲量の急減は、資源量が低下したことで着業統計数が減少したためと考えられ、近年では中位・横ばい傾向となっている。土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数は1980年代半ばをピークに減少傾向にあったが、2003年に過去最低となつて以降、やや増加傾向にある。一方、熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数は2008年以降やや減少傾向にある。最近5年間の両海域における資源密度指数の年変化率の傾向より、本系群は中位・横ばい傾向にあると判断された。



管理方策

資源水準は中位・横ばい傾向にあることから、当面は現状の資源状態を維持することを管理目標とした。主要な1そうびき沖底の漁場である土佐沖・熊野灘の直近5年間(2006～2010年)の資源密度指数の回帰直線から、2010～2011年および2011～2012年の変化率を外挿して求めた。これらを各年の漁獲量で重み付けして求めた値は、2010～2011年、2011～2012年ともに0.95であった。これらの積である0.90係数として、最近3年間(2008～2010年)の漁獲量の平均値に乗じてABClimitを算定した。これに安全率0.8を乗じてABCtargetとした。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	900トン	0.90Cave3-yr	-	-
ABCtarget	700トン	0.8・0.90Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 1998年以降の総漁獲量は減少傾向が続いていたが、2004年以降やや増加に転じた
- 2010年の総漁獲量は901トンで、2009年の1,010トンをやや下回る程度
- 2そうびき沖底の稼働隻数が大幅に減少したことにより、本漁業種類の漁獲量が激減
- 資源の水準・動向は、中位・横ばい傾向

管理方策のまとめ

- 現状の資源を維持すること

執筆者: 梨田一也・阪地英男

資源評価は毎年更新されます。